

能代厚生医療センター 公開・オプトアウト書式

研究課題名	脳卒中を含む循環器病対策の評価指標に基づく急性期医療体制の構築に関する研究「Close The Gap – Stroke」
情報の利用目的及び利用方法（他の医療機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>本研究は、2019年度の日本医療研究開発機構研究事業の一環として九州大学大学院医学研究院 脳神経外科教授 飯原弘二先生が代表となっていく。</p> <p>目的；脳卒中センターの医療の質の評価に活用可能な QI の算出をし Evidence Practice Gap（良質なエビデンスに裏打ちされたアウトカム向上に繋がり得る診療行為と、実際の臨床で行われる診療行為とのギャップ）を埋めることを目的とする。</p> <p>方法：脳卒中の診療を行う施設から提供された、入院患者の診療情報の一部を活用していく。</p>
利用または提供する情報の項目	DPC データ、カルテへ記載された診療情報、血液検査結果、画像結果
対象者及び対象期間	2016年1月～2017年12月の間に退院し、急性期脳梗塞に対してt-PA 静注療法、血栓回収療法を施行した症例。
利用の範囲	九州大学脳神経外科及び国立循環器病研究センター循環器病統合情報センター
試料・情報の管理について責任を有する者	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科 教授 飯原弘二 先生
お問い合わせ先	能代厚生医療センター 脳神経外科 太田原 康成 TEL;0185-52-3111
共同臨床研究機関	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科
備考	特になし

能代厚生医療センター 公開・オプトアウト書式

研究課題名	脳卒中を含む循環器病対策の評価指標に基づく急性期医療体制の構築に関する研究「Close The Gap - Stroke」
本研究の目的	<p>本研究は、2019年度の日本医療研究開発機構研究事業の一環として九州大学大学院医学研究院 脳神経外科教授 飯原弘二先生が代表となっていく。</p> <p>目的；脳卒中センターの医療の質の評価に活用可能な QI の算出をし Evidence Practice Gap（良質なエビデンスに裏打ちされたアウトカム向上に繋がり得る診療行為と、実際の臨床で行われる診療行為とのギャップ）を埋めることを目的とする。</p>
研究方法（使用・提供する試料等）	<p>脳卒中の診療を行う施設から提供された、入院患者の診療情報の一部を活用していく。</p> <p>（急性期脳梗塞に対して、t-PA 静注療法、血栓回収療法を施行した患者さんの DPC データ、カルテへ記載された診療情報、血液検査結果、画像結果）</p>
対象期間	2016年1月～2017年12月に退院した患者さん
研究責任者	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科 教授 飯原弘二 先生
お問い合わせ先	能代厚生医療センター 医事課 宮城 康春 TEL;0185-52-3111
備考	特になし